

課題名 4.1. 県内ハウスミカン園における肥培管理の実態

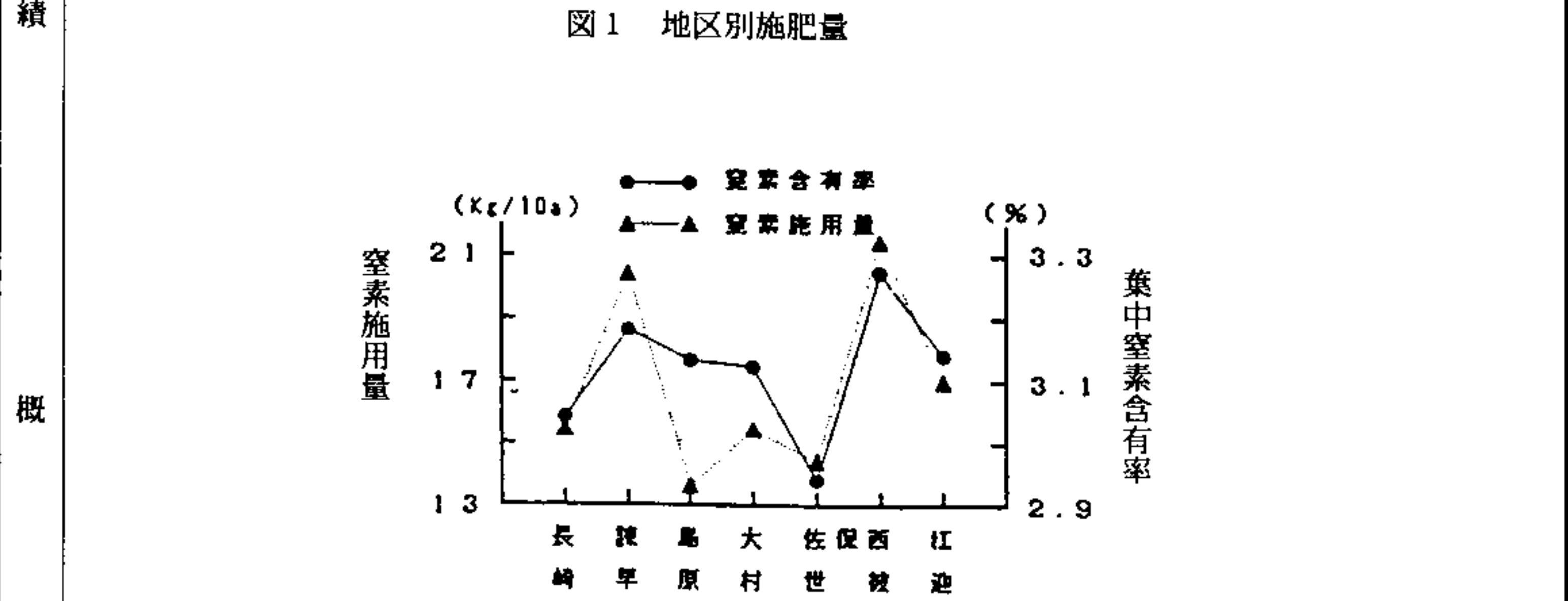
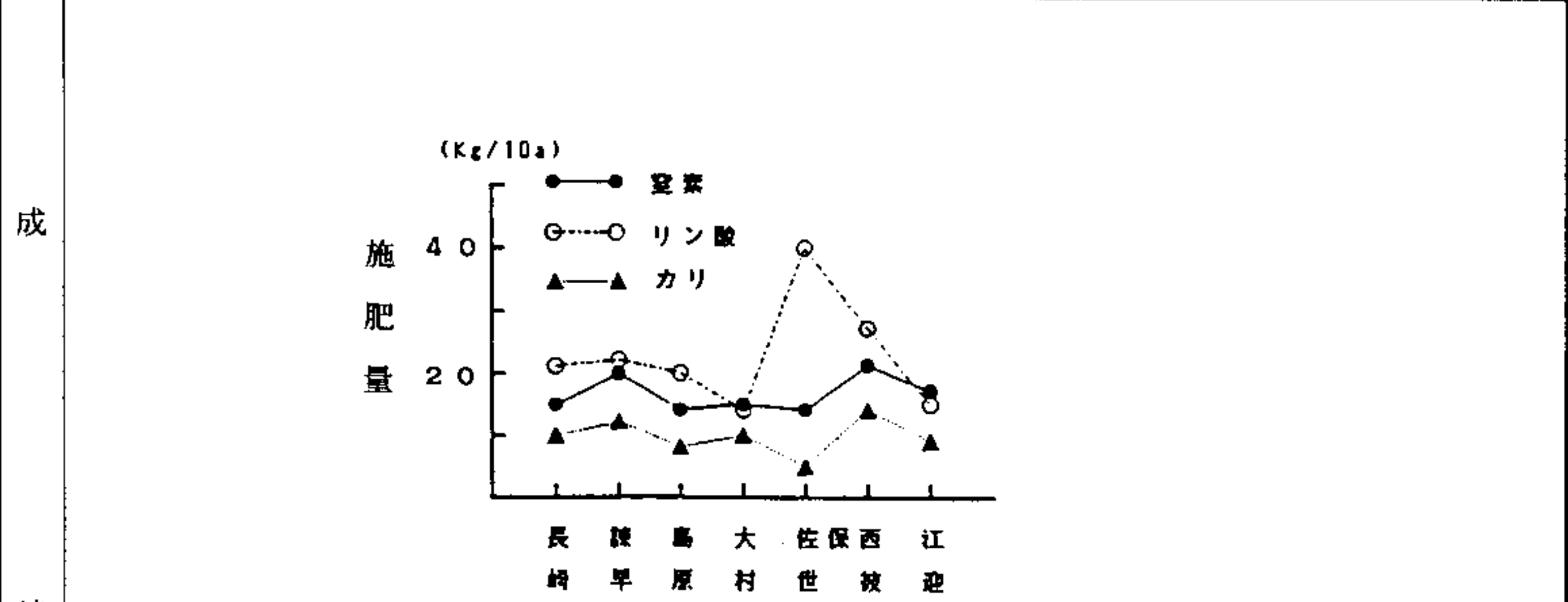
成果の要約

(1) 長崎県内におけるハウスミカン栽培での肥培管理の中で施肥量は地域によって異なり、特にリン酸は顕著な違いを示した(第1図)。葉中窒素含有率は、黒ボク土の島原地域を除くと窒素施用量と正の相関関係がみられた(第2図)。

(2) 樹勢の強弱(園主の印象度、強~弱の5段階)と施肥量の間をみると、樹勢が弱いと思われる園ほど窒素施用量が多くなる傾向にあった(第3図)。

(3) 葉中カルシウム、マグネシウム含有率は、樹勢が弱いと思われる園ほど低くなる傾向にあった。また、土壌中のマグネシウム/カリ比は樹勢が弱いと思われる園ほど低くなる傾向にあった(第4図)。

(4) 土壌の無機態窒素含量と電気伝導度に高い正の相関関係がみられた(第5図)。このことから、栽培管理後半においてもかなりの無機態窒素が蓄積していることが分かった。



要

成

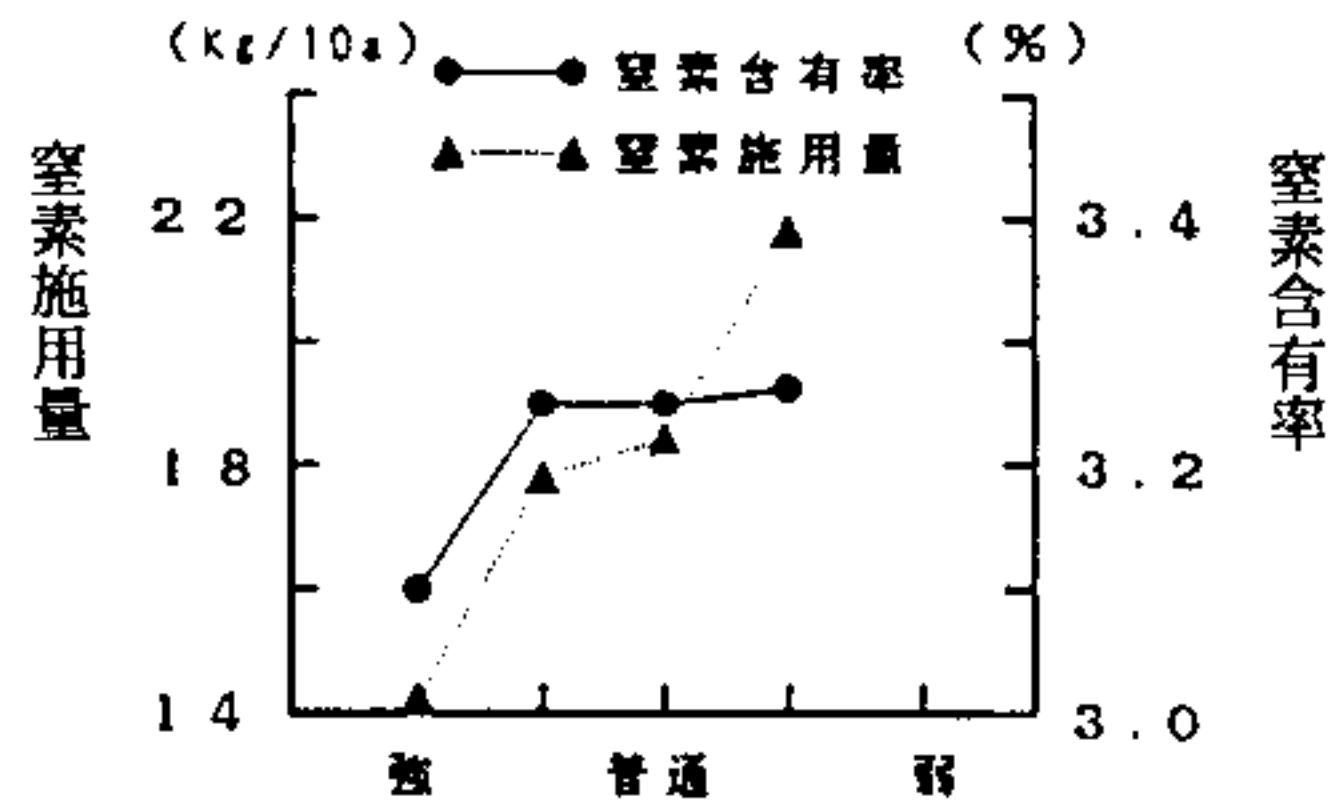


図3 樹勢別窒素施用量と葉中窒素含有率

績

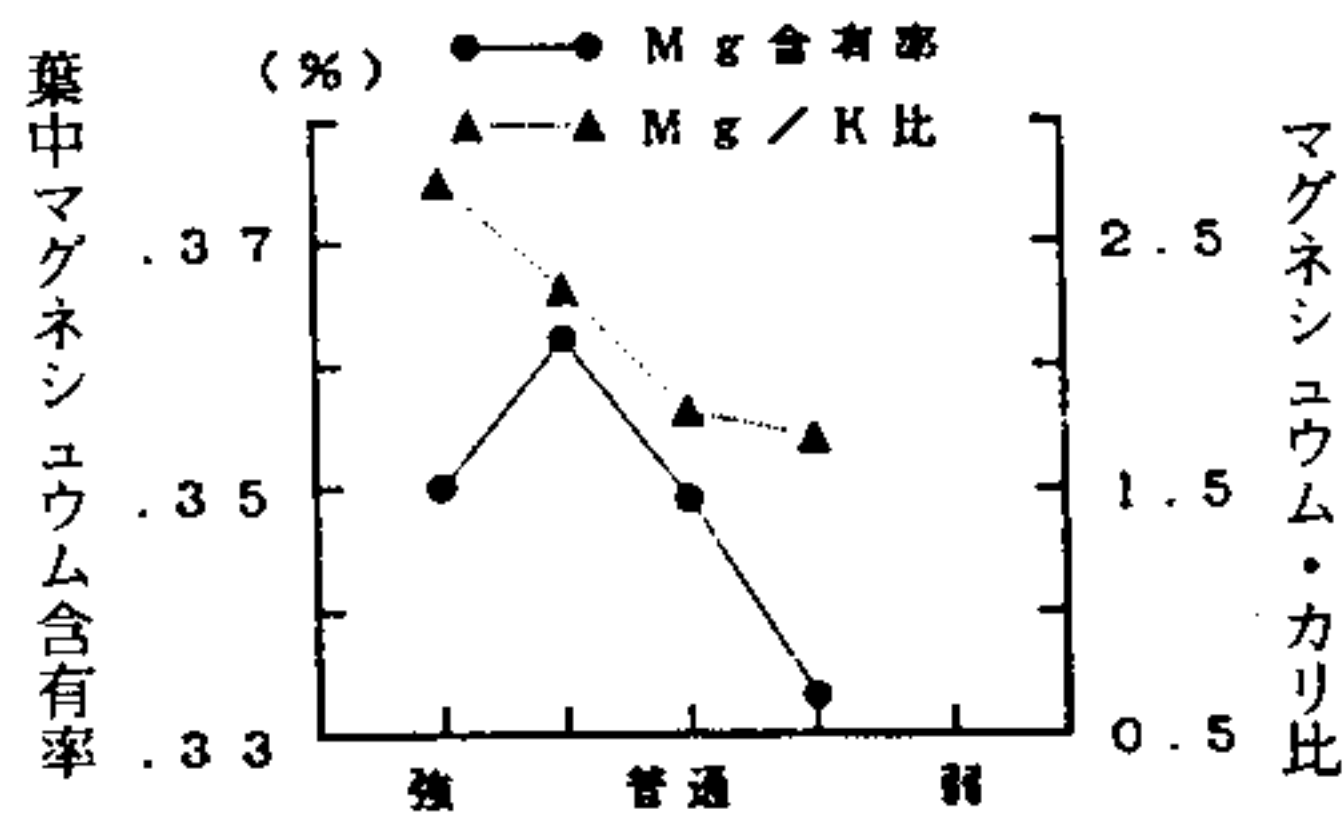


図4 樹勢別葉中Mg含有率とMg/K比

概

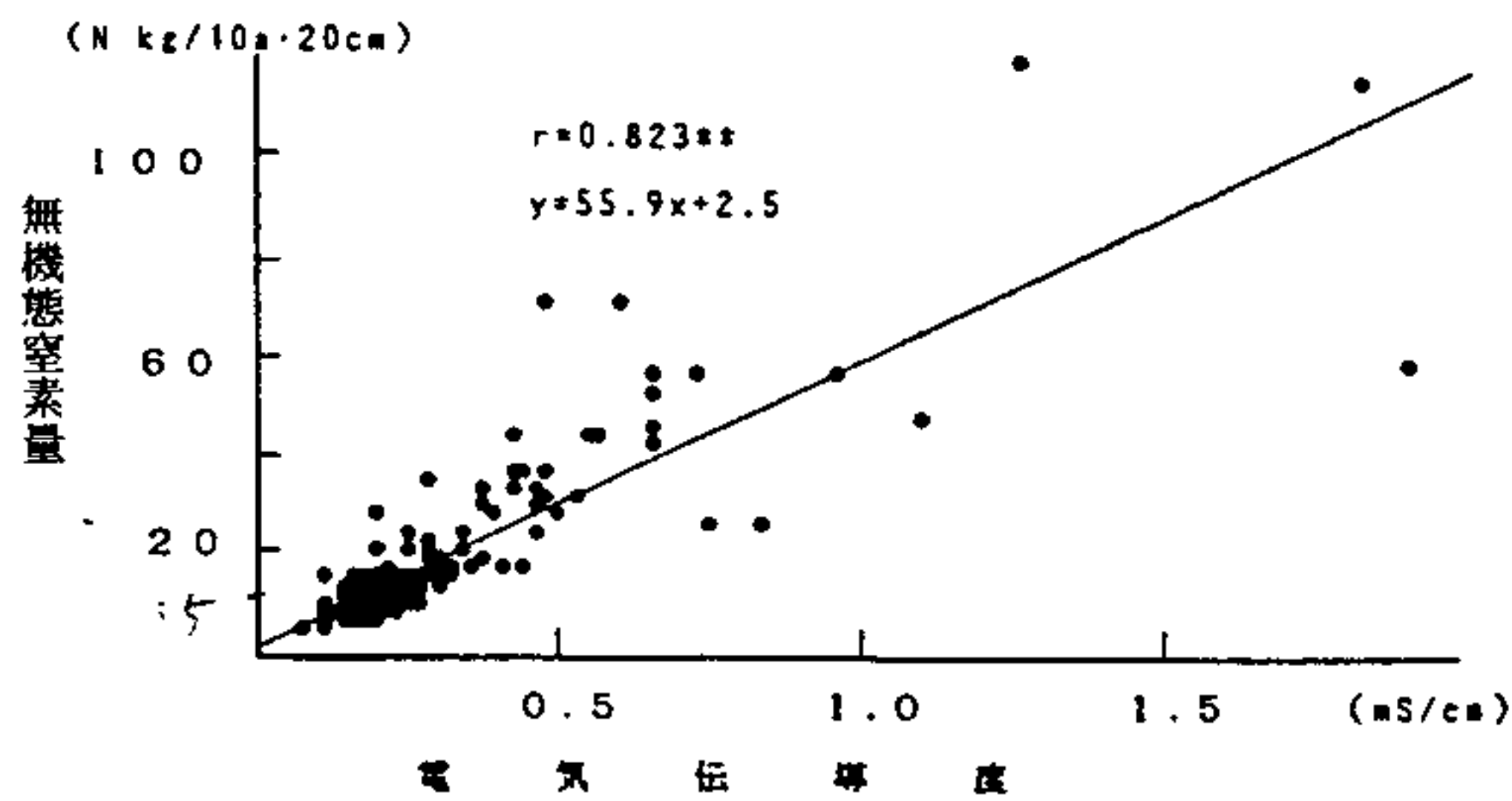


図5 ハウスミカン園の無機態窒素量と電気伝導度の関係

(果樹試験場)

要

普及上の留意点

(1) 火山灰土地帯特に黒ボク土地帯においては、易分解性窒素含量が多いなど施肥に対する反応が他の土地帯と多少異なるので注意する必要がある。